

# 議会だより

第59号

平成30年10月31日発行



## 主な内容

- 第4回子ども議会 ..... P 2～3
- 第79回定例会の結果 ..... P 4～9
- 一般質問 ..... P 10～16
- 委員会調査レポート ..... P 17
- 1年間の調査報告等 ..... P 18～19



南あわじ市議会ホームページ  
<http://www.city.minamiawaji.hyogo.jp/site/gikai/>

食まつり・畜産共進会にて（9月23日：賀集スポーツセンターグラウンド）





**太田 咲倭子**議員 (倭文小)

倭文小学校伝統のしおり織物の販売をした。織り方を教えたりしてたくさんの人たちと出会った。そういう機会を増やすことで観光客が増えるのではないかな。



**出口 和奏**議員 (三原志知小)

サンライズ淡路のアスレチックやサイクリングターミナルの遊具を復活させて、定期的なイベントを開催してはどうか。自転車も通れる歩道も整備してほしい。



## 南あわじ市の夢のあるまちづくり

8月8日、「第4回南あわじ市子ども議会」を開催しました。当日は、前回と同様、市内の各小学校の代表16人が子ども議員として、「南あわじ市の夢のあるまちづくりについて」をテーマに発言し、議員が答弁を。また、入場時に子育て応援キャラクター「ずしお船長めいすいくん」がハイタッチで場を和ませました。

会」を開催しました。当日は、前回と同様、市内の各小学校の代表16人が子ども議員として、「南あわじ市の夢のあるまちづくりについて」を行いました。「ゆめるん」と選挙啓発キャラクター「う子ども議員を出迎え、緊張感に包まれた会場



**阿部 萌葉**議員 (阿万小)

便利なスマホであるが、使い方によっては事件に巻き込まれる危険もある。スマホの使用マニュアルを、ポスターや広報誌でもっとアピールしてはどうか。



**堀 琉玖**議員 (辰美小)

市内の活用されていない空き地や広場を、芝生の多目的グラウンドにしてはどうか。スポーツを通じた交流でまちの活性化につながるのではないかな。



**馬部 いちか**議員 (松帆小)

南あわじ市に若い人が働ける場所があればいいと思う。また、子どもや大人、島外の人が南あわじ市の良いところを見たり食べたりするマラソン大会もよいと思う。



**内藤 美裕**議員 (沼島小)

沼島は人口の減少が課題となっている。私の家族のような実際に移住した人の思いを南あわじ市のホームページに載せて沼島の人口を増やし活性化してほしい。



**興津 光**議員 (湊小)

湊は道が狭く住宅どうしが接近し死角が多い。カーブミラーをもっと設置してほしい。狭い道の橋に柵が無く危険な箇所もある。



**原坂 昌志**議員 (神代小)

子どもが参加した南あわじ市の特産物のPR活動に、QRコードを使ったチラシや動画で南あわじ市の魅力を発信してほしい。



**大塚 那菜**議員 (西淡志知小)

私たちの地域に、学年をこえて活動したり、遊べたりする公園があればどれだけ楽しいでしょう。また、人が集まる場所にイスやベンチなどを整え、南あわじ市に住みたくなるようにしてはどうか。



**増見 颯斗**議員 (八木小)

小さい子どもが自然を体験できる公園を増やしてほしい。淡路島の豊かな自然を生かすことで、子育てのために若い人が増えるのではないかな。



**三浦 愛花**議員 (福良小)

環境をよりよくする取組みをすればよいと思う。また、南あわじ市の観光スポットを活かして地元を盛んにする取り組みをしているのか。



**安田 大晟**議員 (榎列小)

地域の人たちとコミュニケーションをとれる公共の場がほしい。また、地域にみんなが安心して遊べる公園がほしい。災害が発生した時には避難場所にもなる。



**阿部 太郎**議員 (北阿万小)

雨が降っても遊べる室内アスレチック施設があれば、いつでも友達や家族と遊べる。また、旅行に来た人も天候を気にせず予定が立てやすいと思う。



**廣本 純之介**議員 (市小)

道路の舗装が傷んでいて危険である。きれいな舗装になると安心して遊びに行ける。また、センターパークの遊具も整備してほしい。三原川に水辺の公園を。



**糸山 夏二郎**議員 (賀集小)

私たちの地域に本屋さんがない。自転車でいける場所に本屋か図書館を建ててほしい。公園にちょっと工夫された、誰でも遊べる遊具を希望する。



**前田 理寿**議員 (広田小)

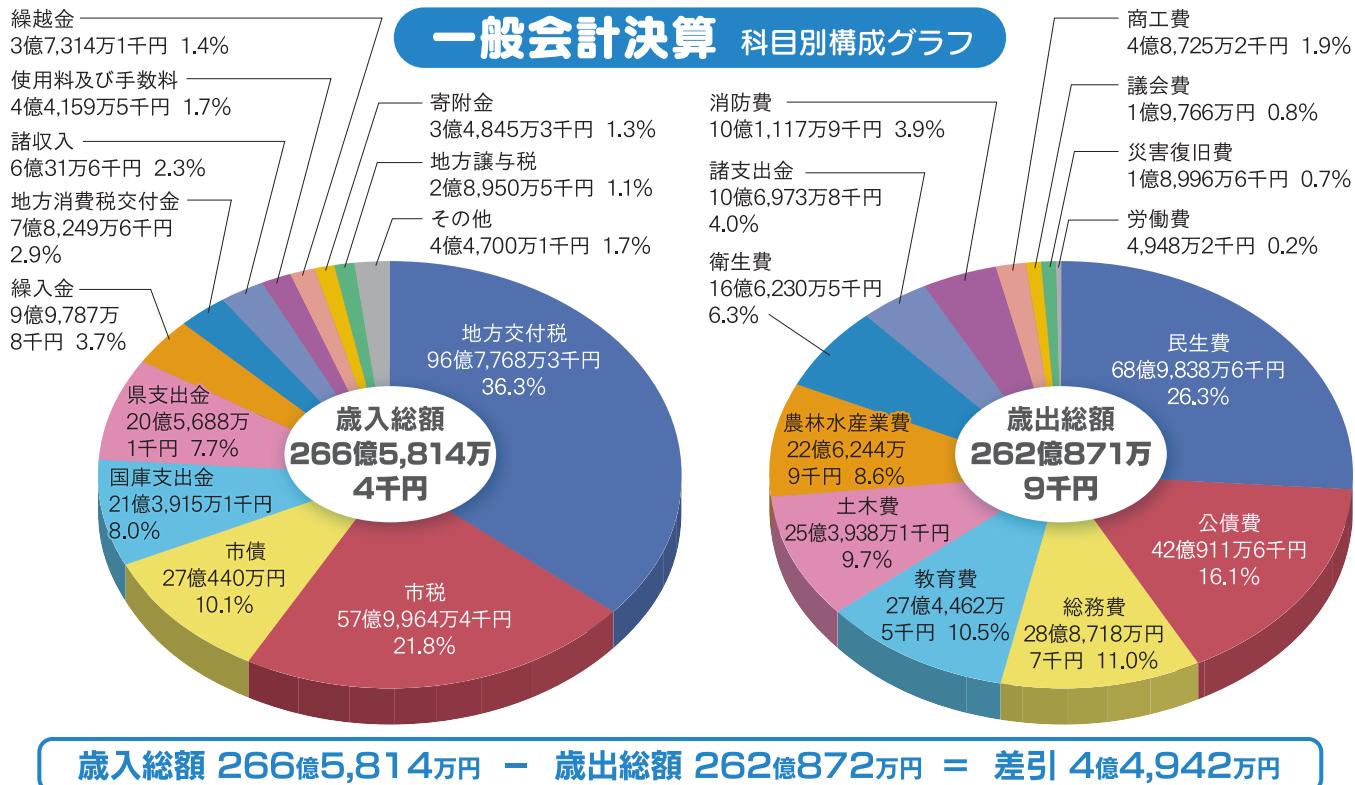
ゴミステーションでゴミがあふれカラスがつつく。ゴミステーションを増やしてほしい。遊び場が少なく遊具も少ない。安心して外で遊べるようにしてほしい。



# 29年度決算を認定しました

## 第79回南あわじ市議会定例会

議案14件、29年度決算14件、請願1件を審査



▲9月定例会の審議の様子



▲4日間行われた決算審査特別委員会

**ふるさと応援寄附金**  
ふるさと南あわじ応援寄附金が前年度に比べ約1億円減っている。効果的なPRを行い増額に努めること。

**各種証明書の発行**  
各種証明書の発行は昨年7月からコンビニ交付が開始され、利便性が上がっているが、総合窓口センターに証明発行機を置き、待ち時間の短縮を検討すること。

**市税の徴収率**  
市税の徴収率は県下で最下位の90.6%である。徴収率が低ければ交付税が減額される。公平性を保つために徴収率を向上させること。

**一般会計決算**  
決算の審査過程において出された主な意見・提言等は次のとおりです。



▲世界遺産登録を推進している「鳴門の渦潮」

**鳴門の渦潮**  
「鳴門の渦潮」世界遺産登録推進運動を活発に行い、市民レベルでの啓発を積極的に進めること。

**職員採用試験**  
職員採用試験は視覚障害者に配慮された試験方法へ改善し、障害者雇用率の達成を早期に行うこと。

**電気自動車充電設備**  
充電設備の使用が少ないが今後新設や設置場所の周知を図ること。

### 9月定例会の日程

8月30日	本会議 1日目 (議案上程ほか)
9月5日	〃 2日目 (一般質問)
6日	〃 3日目 (一般質問)
7日	〃 4日目 (一般質問)
11日	決算審査特別委員会 (決算審査)
13日	〃
14日	〃
18日	〃
20日	産業厚生常任委員会 (議案審査)
21日	総務文教常任委員会 (議案審査)
26日	本会議 5日目 (追加議案上程、採決ほか)

**決算審査特別委員会**  
委員長/蛭子 智彦  
副委員長/原口 育大  
委員/議長・監査委員を除くすべての議員



▼通勤・通学者交通費補助金

通勤・通学者交通費補助金を減額するためにも淡路三原高校の定員増を県教育委員会に求めること。

▼一人暮らしの高齢者の安全

在宅一人暮らし高齢者等の安全確保と不安解消のための緊急通報システムについて民生委員に協力を求め普及率向上に努めること。

▼公園・憩いの場

公園・憩いの場調査がされたことから、新年度予算に具体的改善策を盛り込むこと。

▼食肉センター

食肉センターの健全経営に向けた経営戦略を検討すること。

▼美菜恋来屋

美菜恋来屋の施設内の動線のさらなる改善を行うこと。

▼地場産業

南あわじ市の地場産業の発展に努めること。

▼町ぐるみ健診

町ぐるみ健診では腫瘍マーカーだけでなく各種がん健診の重要性を周知し、健診者数を増やすこと。

▼狂犬病予防

狂犬病予防注射の接種率



▲新鮮な食材が揃う「美菜恋来屋」

が低い、予防注射は法定接種でもあり、接種を促す手立てを検討すること。

▼下水道事業  
下水処理区域を見直し、下水道事業への過大投資を行わないよう早期に方向性を決定すること。

▼消防団  
消防団は地域防災の中核であり、必要な施設整備や団員研修等の充実に取り組むこと。

▼松帆銅鐸  
平成32年に松帆銅鐸が返ってくることを踏まえ計画的に施設整備に取り組むこと。



▲松帆銅鐸

■討論  
一般会計決算  
反対 吉田良子議員

特別会計決算  
肉付け予算で、業務改革のための調査で、総合窓口センターの改善は必要だが、市役所業務の外部委託、非正規雇用を推し進めるための調査報告であった。また、単位老人クラブへの補助金が減額され、国保税の引き下げが行われなかった。

●介護保険特別会計

介護が必要な人に必要なサービスを提供できる仕組みづくりや任意事業を拡大すること。

■議決結果  
賛成多数で認定（14件）

市税の徴収率が県内最低

- ・決算審査特別委員会では、税の徴収には厳しく対応するよう指摘があった。
- ・大きな要因は、固定資産税の徴収率が過年度分も合わせると88%と低い。滞納金額は約3億7800万円。
- ・過去からの滞納分は徴収するが、当年度分が納税されない。これの繰り返し。
- ・島内他市は差し押さえの強化や徴収の専門課設置などでここ数年、徴収率が伸びている。
- ・南あわじ市は税金以外に、保育料や住宅使用料などの収入未済額も増える傾向。

議案の審査報告

危険ブロック塀等撤去支援補助金の追加など

30年度一般会計補正予算（第3号）

■議案内容  
歳入歳出に、それぞれ7472万1千円を追加。

■主な質疑

歳出

▼危険ブロック塀等撤去支援補助金  
100万円を追加

問 持ち主が既に撤去したブロック塀は補助対象になるか。  
答 現時点では対象外であるが、今後、大阪府北部地震以降に補助金を遡及する国の要綱が確認できれば検討する。

問 1件あたりの補助額は。対象経費は上限30万円で、経費の3分の2を補助する。

問 優先順位はあるのか。  
答 避難路や通学路等に面するブロック塀を優先的に行うか協議中である。

▼マイホーム取得補助金  
5000万円追加

問 マイホーム取得補助金の受付件数に上限は。  
答 上限は設けず、補正予算で対応したい。

▼空き家不良度判定業務委託料40万円を追加

問 内容は。  
答 空き家に関する相談の中で、老朽度が高い約20件について所有者と協議の上、建築士へ判定を委託する。判定結果をもとに、所有者へ適正な管理を依頼し、改

定住自立圏形成協定の締結

■議案内容  
洲本市と定住自立圏形成協定を締結する。

■主な質疑  
問 淡路一市を目指していることにならないか。  
答 淡路一市を前提としたものではない。

問 本市が周辺市と位置づけられるのは本意ではないか。  
答 「中心」「周辺」という

■議決結果  
賛成多数で原案可決

問 水能力も高い。

▼測量設計委託料  
440万円を追加

問 補正の理由は。  
答 台風21号による農地、ため池被害の復旧24件分の測量設計である。

■議決結果  
賛成多数で原案可決

排水ポンプ借上料250万円を追加など  
30年度一般会計補正予算（第4号）

■議案内容

歳入歳出に、それぞれ1070万円を追加。

■主な質疑

歳出

▼排水ポンプ借上料  
250万円を追加

問 今回の借上料は何回分か。  
答 2回分であり、予算が足りなくなつたための計上である。

問 地元消防団のポンプ自動車による排水作業を実施できないのか。  
答 他の活動にも従事しており、排水ポンプの方が排



▲通学路に面したブロック塀（撤去前）

善されない場合は、条例に基づいて、撤去費の補助、指導、勧告、命令、代執行と手続きを踏んでいく。

問 淡路一市を目指していることにならないか。  
答 淡路一市を前提としたものではない。

問 本市が周辺市と位置づけられるのは本意ではないか。  
答 「中心」「周辺」という



議決結果一覧

議長は表決に加わらない。(○は賛成、×は反対、－は欠席)

■賛否の分かれた議案

Table with columns: 提出者, 議案名, 議決結果(議会の意思), 各議員の賛否 (中村三千雄, 阿部計一, 登里伸一, 北村利夫, 印部久信, 長船吉博, 吉田良子, 木場徹, 小島一啓, 久米啓右, 北条志津子, 谷口博文, 土井巧, 原口育大, 熊田司, 蛭子智彦, 太田康文)

■全議員賛成の議案 (欠席者を除く)

Table with columns: 提出者, 議案名, 議決結果(議会の意思)

Table with columns: 提出者, 議案名, 議決結果(議会の意思)

第80回南あわじ市議会定例会日程(12月)

◆開会はすべて午前10時～ ※すべてインターネット中継あり

Table with columns: 会議日, 会議内容(予定)

11月の委員会等日程

Table with columns: 委員会, 日時・場所・内容

市立保育所などの民営化を検討

保育所等運営事業者選定委員会条例の制定

■議案内容

南あわじ市立の保育所等の民営化に関し、適正な運営事業者を選定するために、その選定基準及び選定について調査審議する委員会の設置に関し、必要な事項を定める。

■主な質疑

問 市立保育所を民営化する利点は。

答 市民の多様なニーズに対応して弾力的に対応できる。また、法人が施設を設置する場合は、国から運営費について補助金が交付され、市の経費負担が抑制される。

■討論

反対 吉田良子議員

■討論要旨

市立保育所の民営化に関

■議決結果

賛成多数で原案可決

指定地域密着型サービス事業者の指定の基準並びに指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正

■議案内容

介護保険法施行規則が改正され、看護小規模多機能型居宅介護の申請者資格要件が緩和されることに伴い、所要の改正を行う。

問 看護小規模多機能型居宅介護は本市では必要なのか。

答 平成32年度までの第7期介護保険事業計画では整備の予定はないが、看護師が訪問できるということから医療が必要な要介護者に

■議決結果

とっては有効な施設であると考えられるので、状況をみながら必要であれば第8期介護保険事業計画で整備を検討したい。賛成多数で原案可決

旧優生保護法により強制不妊手術を受けた当事者に対する補償等を求める請願書

請願は不採択

■議案内容

国の関係機関に、①強制不妊手術の実態調査を行うこと、②強制不妊手術を受けた当事者に対する謝罪を行うとともに、補償等を行うための立法措置等の必要な措置を講じること、③高齢化がすすむ被害者等、その個々の障害に配慮があり、人としての尊厳に基づく安心と生きがいをもって生活できる施策を早急に拡充されたい。とりわけ、特別養護老人ホームと養護老人ホームが全国でわずか10か所にとどまっているなど、大きく立ち遅れている「高齢聴覚障害者」に対する施設サービス、在宅サービス、生きがいや社会参加への基盤整備・施策の拡充を国と地方自治体に於いて至急に取組むこと、の意見書を提出すること。

■請願者 兵庫視覚障がい者の生活と権利を守る会淡路支部代表 吉田善平 淡路聴力障害者協会会長 斉藤 勇

■紹介議員 蛭子智彦議員

■主な質疑

問 旧優生保護法による被害者救済と聴覚障害者に対する福祉施設の整備、二つの趣旨があり、一つずつに分けた方が趣旨が明確になるのでは。

答 再考したい。



# 一般質問 市政を問う

9月5日、6日、7日の3日間にわたって、12人の議員が一般質問を行いました。  
なお、市ホームページで、さんさんネットで放送した「一般質問」の番組を動画配信していますので、ご覧ください。

**閲覧方法** 「市のホームページ」→「南あわじ市議会」→「録画放送」→「一般質問の録画配信」

## 議会だよりの新しい取り組み

スマートフォンやタブレット等で質問議員のQRコードを読み取ると、直接一般質問の録画映像にアクセスできます。

※動画の再生には別途通信料がかかる場合があります。



日本共産党南あわじ市議員  
蛭子 智彦 議員

## 道路冠水の解決を

**問** 市内の道路冠水について、状況を把握しているか。

**建設担当副部長** 市内では慢性的に冠水する場所は19ヶ所。内訳は西淡地域が9ヶ所、三原地域が7ヶ所、南淡地域が3ヶ所。県道が9ヶ所、市道が10ヶ所。  
**問** 道路冠水は市民生活にどのような影響があるか。  
**建設担当副部長** 通勤、通学、また救急などに支障が出るかと考えられる。

**問** 集落ごとにどうなっているか。  
**建設担当副部長** 古津路、



▲大雨により冠水した道路

**問** 湊、樫田、江尻、北方、志知川地区。道路冠水は、通勤、通学への影響や、救急車両が通れないという問題も起こる。また、観光地としての浜離宮や慶野松原荘にも悪いイメージがでる。どのように道路冠水の改善を進める計画か。調整池にゲートをつけ、排水ポンプを付けるなどの対応が必要だ。  
**産業建設部長** 予算



確保も含め、県へ要望を重ねていく。  
**市長** 調整池の手法について、県土木と勉強しながら進める。

## 関空ライン補助金の即時返還を

**問** 関空ラインへ補助金を出しているが、事業目的や内容が変わってきていないか。  
**総務企画部付部長** 関空ラインの事業計画が持続可能なものか見極めている。

**問** 相当無理な計画としか判断できない。速やかに決断し、関空航路が大切ならば新たな事業者選定も含めリセットすべき。  
**総務企画部付部長** 早急に対応を検討する。

## 地域からの相談にはオープンに対応する

創世クラブ

久米 啓右 議員



**福祉担当副部長** 市の主催する防災訓練の中で社協が中心になって行っている。

**問** 市長が21地区とのひざを突き合わせたい話をとのことだが、市のスタンスと市民の意識に乖離があるのではないか。  
**総務企画部付部長** 日々の業務の中で地域の声をいただければ、しっかりとそういった場を設けるようにしたい。

**市長** どこかのタイミングでやったらいいのではないかと思いつつ、これまで進めてきたセンター長との対話を通じて、地域がみずから課題を整理して進めていくというやり方に乗っけてみようかなと感じている。それとは別

に、地域の相談にはできるだけオープンで対応していく。  
**災害ボランティアの受け入れは今後詰めていく**

**問** 災害ボランティア活動の支援、受け入れ体制の整備について市の役割はどうなっているのか。  
**福祉担当副部長** 基本的には、社会福祉協議会が担う。しかし、細かい役割分担は今後詰めていきたい。

**問** 防災訓練の中で、災害ボランティアの受け入れの訓練は、これまで行われてきたのか。



## 少子対策並びに人口減少政策

誠道クラブ

谷口 博文 議員



**問** 人口減少、少子対策は当市の最も重要課題だと思う。市長の認識は。  
**市長** 人口減少の過程で少子高齢化が起きている。これが支える側の減少、支えられ側の増加を起し、やはり地域の担い手の減少につながる。率直に申し上げ日本社会が直面している最大の問題と言って差し支えない。

**問** マイホーム取得補助の事業成果は。  
**総務企画部付部長** 平成28年度は、申請件数16件、補助金額が3790万円、転入者35人。29年度は、申請件数31件、金額は7313万300

0円、転入者71人となり、本年度は現時点で、申請件数が27件、金額にして6640万円で、転入者70人となっている。  
**問** マイホーム取得事業は来年度もやって頂けるのか。  
**市長** 来年度もやる。そこから先、どうするかは今後検討する。

**問** 空き家バンク制度の事業成果は。  
**総務企画部付部長** 空き家バンクについても移住、定住促進の観点から、平成28年度より設置し空き家の売却、賃貸を希望する所有者が物件を登録し情報提供し空き家を解消する。登録件数が33件で成



果は12軒成約に至り、残り21軒が現在利用可能物件とし随時マッチングを行っている。利用希望したい方が現在74件となっている。



日本共産党南あわじ市議員

吉田 良子 議員



給付型奨学金制度の創設を求める

淡路三原高校で大学進学のため奨学金制度を利用する生徒は。

国の給付型奨学金は全国で2万人と限られている。そこで教育ローン借りることに。卒業時に300万円から1000万円の借金となり、自己破産す

る若者もいる。経済的理由で進学をあきらめないために支援策はどうか。

市長 まったく検討していないのでは無いが利子補給の方がいい。

産科医など人材の確保のために大学を卒業し、市内に就職した場合、奨学金の返還助成事業をしてはどうか。

教育次長 財源の問題もあり慎重に考えないといいけない。

空き家対策を早急に

自治会等から空き家についての相談件数は。

産業建設部長 100件程度。

耕作放棄田対策は

市単独の補助金等がある。

苦情に対する対策を求める。



▲淡路三原高校

今後の空き家対策の取り組みは。

産業建設部長 危険空き家を所有者が撤去したい場合、専門家の判断の上、13万2千円上限で補助する。今後、危険空き家に対する指導、勧告、命令、代執行の手続きは速やかに行えるよう努力したい。

更地になれば、固定資産税の負担が増える。国へ制度の改善を求めることが必要ではないか。

副市長 考え方が違う。

産業担当副部長 市の単独の補助金等がある。

苦情に対する対策を求める。

ゆづるはクラブ

原口 育大 議員



人口減少・高齢化に対応した「まちづくり」について

まちづくりについての基本認識は。

市長 住民自身が考えて動く、それを行うのがサポートするというプロセスを作っていく。

定住自立圏への参画は、淡路1市への布石と受け取られないか。

市民交流センター構想では、地域づくり協議会に地域の包括的な住民自治組織となってもらい、行政のまちづくりパートナーとしての役割

を期待しているという理解でよいか。

総務企画部部長 地域の合意形成の場合、この位置づけである。

20〜30年先のまちづくりを考えると、立地適正化計画を作つてコンパクトシティを指すべきでは。

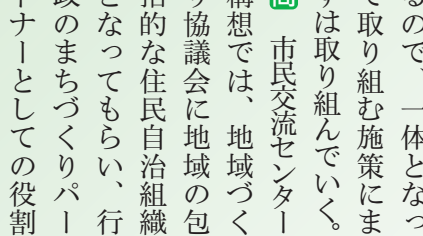
市長から、支障がないような制度があれば積極的に取り入れ、その利点を活用し対応するといった指示もいただいている。

人口減少

と高齢社会に対応する市長の覚悟は。

市長 人口は減少していくので、公共施設も本来に必要なものに絞り、一つ一つの施設がよく活用されていく状況に持つていく必要がある。

一方で、高齢になつても社会を支える側に立つて活動していただく方向を追求していく必要がある。



▲市本庁舎周辺 (第二次南あわじ市総合計画より)

ゆづるはクラブ

太田 康文 議員



小規模特認校制度や離島留学を検討

小規模特認校制度を100人以下の4校に導入し、特色ある学校づくりを進めては。

教育次長 子どもや親の希望を叶える意味で、全体像を考える中で検討していく。

沼島校では離島留学も検討しては。

教育次長 離島留学を導入し、存続も考えるべき。課題抽出や地域連携が必要。

阿那賀の土砂崩れ、早期対応

阿那賀小木場地区の土砂崩れの被害状況と今後の対応は。

危機管理部長 崩れた土砂が幅約30m堆積。近隣16世帯は、が

け崩れ発生後に避難。建設担当副部長 今後の対応として早期に木を伐採し、土砂をトンパックに詰めるかシートで被い臨時対応する。また、この対策事業は県と連携し対策を協議していく。

市内の災害時自主避難の対応策はできていたのか。

市長 一人一人が自分の身に降りかかるリスクを認識し状況に応じた行動を取れる事が基本。その上で、行政がやるべきことをしていく。

大きな施設は淡路島全体で考えるべき

B&Gライター

設備の増設や球切れへの対応は。

教育次長 急ぎの施設整備や将来的なコスト面から設備増設や芝生整備には至っていない。球切れは適正な管理ではない、早急に対応したい。

病院や図書館の3市連携計画があるが、スポーツや文化施設もしてはどうか。

教育次長 大きな施設は淡路島全体で考えるべき。

市長 全体を見ながら優先順位をつけていく。



▲多様な教育環境を選べる南あわじ市へ

市民連合クラブ

土井 巧 議員



民間の危険ブロック塀の改修にも補助金

民間の危険ブロック塀の改修に補助金は。

産業建設部長 建築基準法に適合していないもので、老朽化等により危険と市長が認めるものには補助金を出すように制度を検討中である。

国も危険ブロック塀の改修を推進する方針である。早急に要項等を作成して市民に周知して通学路等の安全確保を進めて欲しい。

小学校特別教室にもエアコンを

市内小中学校の現時点でのエアコンの設置状況は。

各地区公民館のバリアフリーの現状は。

教育次長 スロープ・

フリー化を

地区公民館のバリアフリー化を

各市区公民館のバリアフリーの現状は。

スロープ・

と高齢社会に対応する市長の覚悟は。

市長 人口は減少していくので、公共施設も本来に必要なものに絞り、一つ一つの施設がよく活用されていく状況に持つていく必要がある。

一方で、高齢になつても社会を支える側に立つて活動していただく方向を追求していく必要がある。

多機能トイレ等が未工事の地区公民館は神代をはじめ5館である。

地区公民館は災害時の拠点避難所にもなっている。ハンディキャップをもつた人も避難してくるので早急に改修すべきと考える。

公民館の大規模改修の際にバリアフリー化も進めていく。

移住定住の促進で地域おこし協力隊の活動についても質問した。



▲改修が必要な神代公民館



ゆづるはクラブ

北条志津子 議員



モニタリングの適正管理は

市内のモニタリングに関する進捗状況は。
総務企画部長 平成30年6月に調査した。定期的な点検管理し設置状況を把握し管理台帳やカルテを作成。全体的な考えで対応していきたい。

成相川の環境整備を
市内の管理河川数は幾つか。維持管理はどうしているか。建設担当部長 市



▲成相川(徳野~入田~榎列)の看板と不法投棄

不法投棄巡回、禁止区域の看板増設を。
建設担当部長 看板増設する方向で考える。内部で検討する。

充実した観光振興とは
市内独自の観光施設は幾つか。
産業建設部長 淡路人形座や鳴門の渦潮水仙郷、銅鐸、玉青館などがある。

窓口に乳幼児一時預かり所を
総合窓口で乳幼児一時預かり所設置を再度、要望したい。
福祉担当部長 フロアマネジャーが対応。職員教育もしながら行う。

動員数増の取り組みは。
産業建設部長 きつちりとした商材と地域や関係機関と連携しPRする。

子ども食堂の開設を
子ども食堂の開設は。
福祉担当部長 兵庫県下は98カ所、島内1カ所がある。市長 地域チャレンジ事業ですと良いのでは。

南あわじ市公明党
熊田 司 議員



観光客を増やすための施策を

「みなとオアシス」はどのような制度か。
産業建設部長 福良の街並みも含めて、誘致できるものがある。誘致して、地域の方々を連携して、何か仕掛けができないか考えている。

イベント等で、複数の課にまたがって許可を取る必要があるが、商工観光課が他の課と連携を取って統括できないか。
産業建設部長 副市長から観光だけでなく、市全体について指示が出ている。

はじめ徳島空港などからのダイレクト交通が大事になる。当市の取り組みは。
産業建設部長 実績がどれだけあるか、効果がどれだけあるかが前提。それ以前に淡路島で公共交通を一体化し、観光客が利用できるような仕組みが課題である。



▲みなとオアシス福良の代表施設「福良地区公民館」

市民連合クラブ

印部 久信 議員



相続放棄・空き家対策・寄付について

7月の豪雨にて空き家倒壊があり、相続放棄の空き家があった様であるが、相続放棄とは。
市民福祉部長 相続が発生し、3ヶ月以内に家庭裁判所に届け出す。管理人が清算し、最終的には国に帰属する。

物納について。
市民福祉部長 国税徴収法では相続税に限って物納ができ、地方税法では条項がない。
産業建設部長 事業費が200万円で3分の2を補助。その内訳は、国3分の1、

県6分の1、市6分の1。そして所有者3分の1が基本。
産業建設部長 4月以降30件ほどの相続件数。昨年度35件であるが、まだ申請業務に着手するに遅れている。現在20件分を審査し、優先順位を決め、補助金を出していく。

の維持管理になるものかの観点から見ると、原則的には受付しない。
企業が私募債を発行し、債券の0.3%を企業の意向を受け銀行が学校等にグラント・ピアノ等を寄贈されているが、市長は御存知か。市長 銀行から直接伺った。



家庭裁判所

人口減少下の町づくり

市民連合クラブ

北村 利夫 議員



行政の仕事は。
総務企画部付部長 福祉、学校教育、産業振興、公共交通、土木など、幅広い分野で地域住民の生活を支えることが使命。

人口減少が続いても、市民サービス維持向上は、行政の役割。人口減少と少子高齢化による税収が減少していく中で、高齢化に伴う社会保障経費や老朽化による公共施設の更新費用が増加。高度化、多様化、複雑化する市民ニーズの全てを限られた財源の中で効率・効果的に満たす必要がある。
住宅マスタープランは本年が最終年度だが計画通りか。
建設担当部長 一部出来ていない。
色んな計画は、市民との約束だと思える。
建設担当部長 事業に対しては、制約のある場合もあり約束と違う点では守れていなかった。

人口減少社会での住宅施策の考え方は。
建設担当部長 人口の流出を抑え定住化で地域内の活性化にもつながるので市民ニーズを加味した計画が必要と考える。



住宅施策



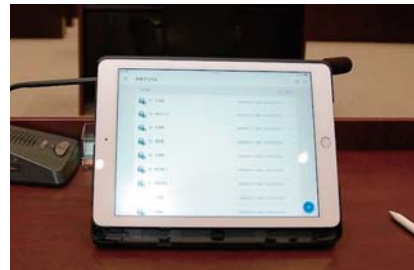
# 委員会調査レポート

各委員会では、議会閉会中も調査活動を行っています。

7～8月の議会閉会中に行われた委員会の概要を報告します。市ホームページに会議録を順次掲載していますので、ご覧ください。

## タブレット等の持ち込み 試験運用開始

議会運営委員会



▲試験運用が開始されたタブレット

### ▼タブレット等の持ち込みの試験運用

9月定例会より試験的に運用している。大量の書類を手軽に持ち運び、議員活動や議会活動の向上を図ることを目的としているが将来的にはペーパーレス化も視野に入れている。

クラウドドライブは無料の「Googleドライブ」を使用。12月定例会最終日までを試験運用期間として、その後に本格運用に向けて検討していく。

### ▼議員研修会

日時・場所：8月20日、委員会室

講師：吉備国際大学教授 森野真理氏

テーマ：「生物多様性が保全される社会について考える」

内容：南あわじ市におけるイノシシやシカのなどの鳥獣の実態や被害、又その対応策等広範にわたる学術的な研究内容。

その他：議員の他、執行部職員も参加。講演後、活発な意見交換等を行った。

## 議会だより作成研修会に参加しました

議会広報広聴常任委員会



▲広報誌セミナーの様子

7月19、20日の2日間、毎日新聞社主催の「広報誌セミナー」

8月3日に兵庫県町議会議長会主催の「広報紙の編集ポイント」

### ポイント

基本事項：「議会を身近にする」ために市民目線に立つことが大事。

表紙：読まれる議会広報として、表紙は大きな役割がある。

写真：人物写真は顔の表情がすべてである。無駄な背景はトリミングをする。

記事：20行に1つ「えっ、へえ～」を盛り込む。

興味がわく見出しを工夫する。主見出しは7～9文字。

紙面のレイアウト：タイトルは大きく表現する。どこに注目させるかの順位をつける。

その他：写真の扱い方で、個人情報やプライバシーに配慮が必要である。

研修を受けた感想：紙面づくりの中で情報の流れや見出しの活用、写真の配置など基本的なことを知っておかなければ良いものが出来にくいことから、委員の任期を複数年にして研修や視察を通じて知識の向上を図らなければならないと思った。

創世クラブ

木場 徹 議員



## 丸山産の献上鯛に支援策を 考えているのか

産業建設部副部長  
来年11月14日に大嘗祭を行うものと考えている。

問 地元の取り組み体制は。

産業建設部副部長

漁協、自治会、観光協会、民宿組合等の活力で盛り上げて頂き、行政が各行事をサポートしていく。

問 この一連の行事



▲各種支援策が講じられているマダイ

に市長はどの様な感触と支援をしていくのか。

市長 宮内庁や知事にもお話をさせて頂いたが、もう一段地元で盛り上げて、県に地元の意欲を伝えて頂きたい。我々も全力でサポートする。

淡路広域消防西淡出張所の体制充実を提案するべきでは

問 7月に市内で建物火災と水難事故が同時期に発生したが、問題はなかったか。

危機管理部長 南淡分署が水難事故対応し、西淡出張所は火災対応を行った。

問 西淡出張所の場合

合通常勤務は少数であり、重複した事故対応の際、市民に不安のない体制をお願いしたい。

危機管理部長 通常では職員は3人か4人である。

問 西淡出張所を分署へ格上げする考えは。

市長 次期計画で全体バランスを考えると国民健康保険税の負担軽減対策

問 4月から運営主体が県広域化になったが納税者に影響は。

市長 広域化ではその方向には行かない。

## 一部事務組合などの議会報告 平成30年7月～9月

組合職員の給与に関する条例の一部改正などの専決処分を承認。

### 淡路広域行政事務組合

#### ▼第3回定例会

〈8月22日〉

平成29年度決算認定を賛成多数で認定、農業共済条例の制定と農業共済事務所設置条例の一部改正を可決。

議長に福本巧議員(洲本市)、副議長に田尾茂議員(淡路市)を選出、監査委員並びに公平委員会委員、農業共済評価委員の選任に同意。

### 淡路広域消防事務組合

#### ▼第3回定例会

〈8月22日〉

平成29年度一般会計決算を認定、財産の取得2件と職員の旅費等に関する条例の一部改正

正、火災予防条例の一部改正を可決。議長に廣内孝次議員、副議長に柳川真一議員(洲本市)を選出。

原口育大議員が「消防力整備について」一般質問を行った。

### 淡路広域水道企業団

#### ▼第3回定例会

〈8月22日〉

平成29年度水道事業会計決算を認定、平成30年度水道事業会計補正予算(第1号)を可決。議長に太田善雄議員(淡路市)、副議長に木場徹議員を選出。

### 洲本市・南あわじ市衛生事務組合

#### ▼第2回臨時会

また、議長に原口育大議員、副議長に氏田年行議員(洲本市)を選出、監査委員に小野章二議員(洲本市)の選任に同意。

### 兵庫県後期高齢者医療広域連合

#### ▼第2回定例会

〈8月22日〉

議長に寺崎秀俊議員(神戸市)を選出。29年度一般会計・特別会計決算を認定。30年度一般会計・特別会計補正予算(第1号)、職員等の旅費に関する条例の一部改正を可決。請願を不採択。副広域連合長に森哲男氏(三田市)、監査委員に岸本義一氏(神戸市)の選任に同意。



友好・姉妹都市との交流のあり方に積極的な協議を

総務文教常任委員会

▼市の総合的企画・調整

高齢者等元気活躍推進事業では、元気な高齢者に高齢化社会の支える側に立っていただくモデル的事業になることを期待する。

▼商工業及び観光の振興

大鳴門橋管理路の観光資源としての利活用について、積極的な取り組みを期待する。

▼消防・防災対策の推進

避難行動要支援者の個別支援計画の作成及び他地域からの支援を受け入れるための受援体制の整備について進められたい。

▼情報化の推進

ケーブルテレビサービスの民間への移行手続で困惑している市民もいる。それぞれの状況に応じて丁寧な説明を行うこと。

衛生センター進入道路整備工事の入札において、契約締結後、設計図書に違算が判明し、落札者に変更が生じることとなったが、市は落札者を変更せずに契約を継続した。このことに関し、市の対応及び内部における事務手続について、「入札監視委員会」に意見を求めるとともに、再発防止体制の早急な構築を求める。

学校再編は将来を見据えたビジョンを持って話し合いを

産業厚生常任委員会

▼教育の充実・文化、スポーツの振興と関係施設の整備

学校再編は地域づくりにおける大きな課題である。地元の見解を尊重し、市の方針が良いのか検討する余地を持って、議論を進められたい。また、将来を見据えたビジョンを持って話し合いに努められたい。

▼介護保険と高齢化社会対策

認知症初期集中支援チームについて、周知徹底し、優れている点、劣っている点を把握、改善し活動されたい。

▼農業振興の推進

高齢化や後継者不足によりリタイアする農家の農地の有効活用を図る中間管理機構の制度を活用できるよ

▼医療体制と健康作りの推進  
町ぐるみ健診について、



▲市役所に設置されているAED

▼国際交流及び友好市町の調査  
アメリカ合衆国セライナ市とは、毎年交互に学生の派遣を行っているが、セライナ市からの派遣学生数が減少している。セライナ市を含め、友好・姉妹都市との交流のあり方について積極的な協議を求める。

▼生活環境の整備促進

し尿処理場の移転計画は、都市計画審議会において継続審議となった。移転の方向性が定まらなると火葬場建設にも影響が及ぶこととなるため、地元の見解を十分に受け止め、丁寧な協議を進めること。

■管内調査

(2月20日)

市内観光施設及び交通関係者との意見交換会

■管外調査

(5月8日～10日)

●東京都調布市

・事業所及び他自治体との災害に関する協議  
・ドローンを活用した災害時の情報伝達・収集活動

●神奈川県秦野市

・公共施設再配置の取組み

●神奈川県小田原市

・アクティブシニア応援ポイント事業

●埼玉県蓮田市

・入札及び契約制度検討委員会



▶セライナ市との姉妹都市提携20周年記念植樹

1年間の調査報告

9月定例会で総務文教常任委員会、産業厚生常任委員会の平成29年11月から1年間の活動報告が行われました。その結果を報告します。

▼都市整備事業の推進  
気象条件が変わり、予想できない豪雨、暴風等が発生する中、危険空き家に対して処置を講ずるため、早急に空き家等対策審議会を立ち上げられたい。  
排水路計画を整理し、安全・安心に暮らせる街であるために、上下水道、排水、道路等の都市計画を深く研究し、整備されたい。

●議員の意見

「平成23年度から誤算定があったというのはチェック機能が働いていなかった。コンプライアンスに欠けているのではないか」「不足している7人を雇用するだけでなく、受け入れる体制を早急に作っておく必要があるのではないかと」等の意見があった。



南あわじ市は障害者雇用率が法定雇用率に達していない

■8月30日

●報告内容

市の説明では、平成30年度で障害者雇用の不足者数は7人となっている。そのような状況は平成23年から続いている。

要因は雇用率を算定する場合、分母となる職員数から除外する職員(旧除外職員)の割合が過大となり、結果として分母となる職員数を過小に算定した。

今回の状況は兵庫労働局へ報告済(8月24日)。今後、「障害者採用計画」を作成し不足7名の解消に取り組む。また、身体障害者枠の職員募集を引き続き行うとともに、県の訓練センターへも案内し受験者を増やす取組みを行っている。



## 議会報告会に お越しください

9月定例会の内容を中心に、議員自らが議会活動について報告します。  
あわせて市民の皆さま方と意見交換を行い、ご意見・ご要望をお聞きします。  
お誘いあわせのうえ、ご参加ください。

日時	場所	内容
11月6日(火) 午後7時～9時	西淡志知 公民館 (研修室)	1. 議会報告 9月定例会の報告
11月13日(火) 午後1時～3時	沼島総合 センター (大集会室)	2. 意見交換

問い合わせ 議会事務局 TEL0799-43-5005

## 県議会常任委員会が 南あわじ市で開催されます

日時 平成30年 **11月2日(金)**  
午後2時30分～(約2時間)

場所 福良地区公民館 講堂

内容 農政環境常任委員会

テーマ 「豊かな海の再生と水産業・浜の活性化」  
「漁港・漁村の整備」

傍聴を希望の方は、県議会事務局議事課まで  
お申し込みください。

問い合わせ 兵庫県議会事務局 議事課  
TEL078-362-3714

第3回

議会でやってほしいこと。

市民の声

## 「食」まつりで市民にインタビュー

### 「音楽イベントや食材が盛んなまちへ」



- ・音楽イベントをする補助金制度が欲しい
- ・小さい子どもが遊ぶところが少ない
- ・食材を使ったイベントを開催してほしい

(新居田さんご家族)

### 「好調の畜産和牛業界に今こそ支援を」



- ・和牛の単価が上がっている今がチャンス、業界への支援を
- ・後継者育成の補助・支援制度が欲しい
- ・国庫補助金をしっかり市に持ってきてほしい

(垣さん)

### 「飼料の流通に苦労している」



- ・飼料の流通が小規模な畜産農家は苦戦しているので支援を

(坂部さん)

### 「3歳未満の一時預かりを充実してほしい」



- ・1歳から3歳まで週1～2回程度、預かってもらえるところが少ない
- ・新設されたファミリーサポートセンターが、他の制度と同じ場所なので預けにくい

(楓さん)

## 編集後記

議会広報広聴常任委員会では、今夏、第4回南あわじ市子ども議会を開催しました。次代を担う子どもたちが、政治や行政について関心を持ち、学ぶ機会を提供することを目的としています。

今回は「南あわじ市の夢のあるまちづくり」をテーマに子どもたちが一所懸命に考えた質問に対して議員が答えるという形をとりました。16校の子ども議員の質問内容は、真剣に将来の南あわじ市の姿を考えた立派なもので感銘を受けました。議員が分担して答弁原稿を作りましたが、柔軟な発想による前向きな意見には感動するとともに、私たち自身大いに学ぶべきものがありました。(土井)

## 議会広報広聴常任委員会

久米 啓右 北条志津子  
吉田 良子 土井 巧  
阿部 計一 太田 康文